

## 6 教育研究等

### (1) 訪問教育研究会（訪問教育担当教員講習会）

#### ア 趣 旨

訪問教育担当教員及び、重度・重複障害児の担当教員を対象に専門的な知識及び技術を修得するための講習会を開催し、もってその指導力の向上を図る。

イ 参加者 訪問教育担当教員等 31人

ウ 期 日 平成26年7月29日（火）、7月30日（水）

エ 会 場 長野県稲荷山養護学校

#### オ 研究内容

##### (ア) 研究発表、研究協議

a 児童生徒の実態とその支援

b 訪問教育、重度・重複教育の実際

c テーマ（校外学習、卒業後の生活、授業づくり）別グループ討議

##### (イ) 研修会

「重度重複障がいのある児童生徒へのテクノロジーを用いた支援について」

講師：長野県稲荷山養護学校 青木 高光 教諭

### (2) 特別支援教育研究委員会（ハンドブック作成委員会）

学校教育法施行令の一部改正を受け、一人一人のニーズに応じた教育支援の充実を図るため、今後の就学相談のあり方、就学に係る手続き、就学後の一貫した支援についてまとめた「教育支援ハンドブック」を作成し、市町村教育委員会、小・中・高・特別支援学校や関係機関等へ配布し、理解啓発を図った。

## 7 進 路 指 導

### (1) 中学校特別支援学級進路指導研修会

#### ア 趣 旨

中学校の特別支援教育担当教員を対象に進路指導の基礎的研修を行うことを通して、進路指導にかかわる実践的指導力の向上を図る。

イ 参加者 中学校特別支援学級担任等 109人

ウ 期日及び会場 平成26年7月3日（木） 長野県総合教育センター

#### オ 内 容

- (ア) 講義「中学校特別支援学級における進路指導について」
- (イ) 実践発表「中学校特別支援学級から高等学校に進学した生徒の事例」  
「中学校特別支援学級から特別支援学校高等部に進学した生徒の事例」
- (ウ) 情報提供「特別支援学校高等部卒業後について」
- (エ) 協議「進路指導を行う上での課題工夫等 意見交換・情報交換」

## 8 障がい児(者)理解

### ○ 交流教育提携校

特別支援学校と 82 校の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校等とが提携し、通常の学習、運動会などの学校行事や、児童、生徒会の活動などを通して交流した。

## 9 研究指定校等（文部科学省委託事業）

### （1）「特別支援学校機能強化モデル事業」（2年目）

県立特別支援学校全校（18校）において、各校で高められた専門性や共有化した成果を活用し、地域の小中学校等から寄せられるニーズを踏まえた上で、研修会や事例検討会、合同での教材開発などを行い、特別支援学校の専門性をさらに高め、地域の小中学校等を支援するセンター的機能を強化する研究を推進した。

### （2）「インクルーシブ教育システム構築モデルスクール事業」（2年目）

高等学校において、発達障がい等のある生徒がニーズに応じた教育を受けられるようにするため、阿智高等学校において、適切な「合理的配慮」を提供するための校内体制の整備等についての研究を行った。

### （3）「高等学校段階における特別支援教育の充実に関する実践研究」（1年目）

高等学校において、個別の障がいに応じた学習活動を指導することができるよう、教育課程の特例（学校教育法施行規則第 85 条）を適用し、箕輪進修高等学校において、障がいに応じた特別の指導の実践研究を行った。

## 10 特別支援教育就学奨励費

特別支援学校に就学する児童・生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減する目的で、特別支援教育就学奨励費を支給した。 332,080,839 円 （国庫 1 / 2 以内 165,556,967 円）

## 11 学 校 評 議 員

平成 14 年度から特別支援学校に学校評議員制度を導入した。

1 校当たり 5 ～ 8 名程度      全 18 校に設置